



のどごし異常も歯科で検査します ~ 内視鏡 誤嚥検査 ~



内視鏡の歴史

「見えない体の中を検査したい」
医師の希望を叶える内視鏡の起源は、
紀元前までさかのぼります。
当時は喉や肛門などを器具で広げて、直接
内部をのぞき見る診察が行われていました。
(紀元前のポンペイで、肛門をのぞいて
いぼ痔を焼く治療を行っていたそうです。)



※ポンペイ発掘品。
患部を広げる
医療器具が
見受けられる。

「科学の世紀」と呼ばれる19世紀からは、
様々な器具が開発されます。

- ・内蔵の奥まで見たい
→喉から管を挿入してのぞこう。
- ・暗い体内の奥に明かりを照らしたい
→照明装置をつけよう。
- ・患部が小さくて見えない
→レンズをつけて拡大しよう。
- ・硬く真っ直ぐな管の挿入は人体を傷つける
→曲がるようにしよう。

このような経緯で、実用に耐える
「軟性胃鏡」が開発されたのは
1932年と、20世紀になってからのことです。



※初期軟性胃鏡。先端に豆電球がついている。
全体の1/3程が、ある程度曲がる。

そのわずか20年後の1950年、東大とオリン
パスが共同開発した胃カメラ試作機が完成
します。

その後、グラスファイバーやビデオ、
超音波、コンピューター技術の発展により、
私たちが利用している「体の奥まで細やかに
診察できる」現在の内視鏡が生まれました。

「誤嚥」とは本来食道に入るべき食物等
が気管に入ってしまうことです。誤嚥が原
因の肺炎を誤嚥性肺炎と言い、高齢者の
肺炎の多くを占めています。
嚥下内視鏡検査とは、口から食べられな
くなったり、食べられてもむせたり、誤嚥
して発熱する方に、鼻から直径約4ミリの
嚥下内視鏡を入れ、気管の入り口である
声門を直接見ることにより、誤嚥の有無
や窒息のリスクを調べる方法です。

食べたものが、声門の下に入るよう
でしたら、誤嚥と判定され、誤嚥性肺炎の危
険が高いこととなります。
同時に、肺炎にならずに安全に食べるに
は、どのような姿勢で食べたらいいか、ど
のような飲み込み方、どんな食料や食形
態を選んだら良いかも調べます。

健康な人でしたら、食事中に声門の下に
ものが入れば、激しいむせが起こり、排出
されます。
患者さんに、検査食や普段食べているも
のを実際に食べて貰い、食べ物が声門の下
に入り込むかを嚥下内視鏡で観察しま
す。

ものを食べるときの喉の様子を検査するために
「内視鏡」を使用する場合があります。
片貝アタルクリニック院長 三上久里子先生より、
内視鏡検査と誤嚥についての記事を寄稿頂きました。



三上 院長

千歯会のVE (嚥下内視鏡検査)

世界中の医療現場で利用されて
いるペンタックス製内視鏡に
フルハイビジョンカメラシステム
を接合させました。
患部のクリアな映像をモニター
に映し出して
検査します。



現在、食事が安全にできているか？
食形態のレベルを上げたいが大丈夫か？
胃腸だけでも楽しみ程度で良いから食
べたい、または食べさせてあげたいがどうし
たら良いか？
そのような心配やご希望がおりの方
は、どうぞご相談下さい。
ご家族の立会いのもと、実際の内視鏡の
画像を説明しながら、検査を行います。

大網歯科医院

< 歯科用 CT を導入いたしました >

大規模な病院へ CT を撮影しに行くことなく、
当院でより正確な検査、検診が可能となりました。
幅広い歯科診療に応用することができるようになりました。



導入した CT 装置は、従来の装置に比べ、
低線量 CT 装置（被ばく線量の少ない装置）ですので
安心して撮影していただけます。

片貝デンタルクリニック

酸蝕症について

酸蝕症という病気をご存知ですか？
酸蝕症とは酸性度の強い食べ物や飲み物、
また胃酸に日常的にさらされる事により、
歯が病的に溶けて痛んでしまう症状をいいます。
食生活や多忙な毎日との関わりがあるので、
今、注目されています。

酸蝕症が疑われる方は、
酸が軟化した歯をブラシで摩耗させないよう、
食後30分ほどしてから歯みがきをしたり、
飲食しているものを酸性度の低いお茶などに変えて
対策をしてみましょう。



思い当たる方やご心配な方は、
一度診察にいらして下さい。

おゆみ野総合歯科クリニック



唾液は一日1～1.5l程度分泌されます。
ただ、年齢を重ねたり、飲んでいる薬により、
唾液の分泌が減少することがあります。

唾液の効能

- ◇ 食べ物の消化を良くして飲み込みやすくします。
- ◇ 抗菌、殺菌作用により口の中を清潔に保ちます。
- ◇ 口臭を予防します。
- ◇ 若返りホルモン「パロチン」が含まれていて、
肌の張りをもたらします。

たくさん唾液を出すためには、鼻呼吸をしましょう。
左右の歯でバランス良く、よく噛んで食べる習慣を
つけましょう。

また、舌回しも効果的です。
口を閉じて、舌で上下の歯肉をなぞるように舌を回すと
唾液がたくさん分泌されます。
二重あごの予防・改善にも効果的です。
ぜひ、お試し下さい。

訪問事業部



訪問では定期的に患者さんのお口に合ったケア用品を
選んでいます。

「この前のブラシ、良かったよ」

「もっと固めのブラシ、ある？」

「歯間ブラシがほしい……」

等、ご本人、ご家族、施設のスタッフの方から
ご感想を聞かせていただいています。
歯ブラシの形状や患者さんの使い勝手など、
体や口腔内の状態に合わせたケア用品を選ぶよう、
心がけています。
今後もどんどんご意見、ご感想、ご要望を
お聞かせ下さい。